

ジュノラ 6E 携帯用

スーパーヘテロダイン

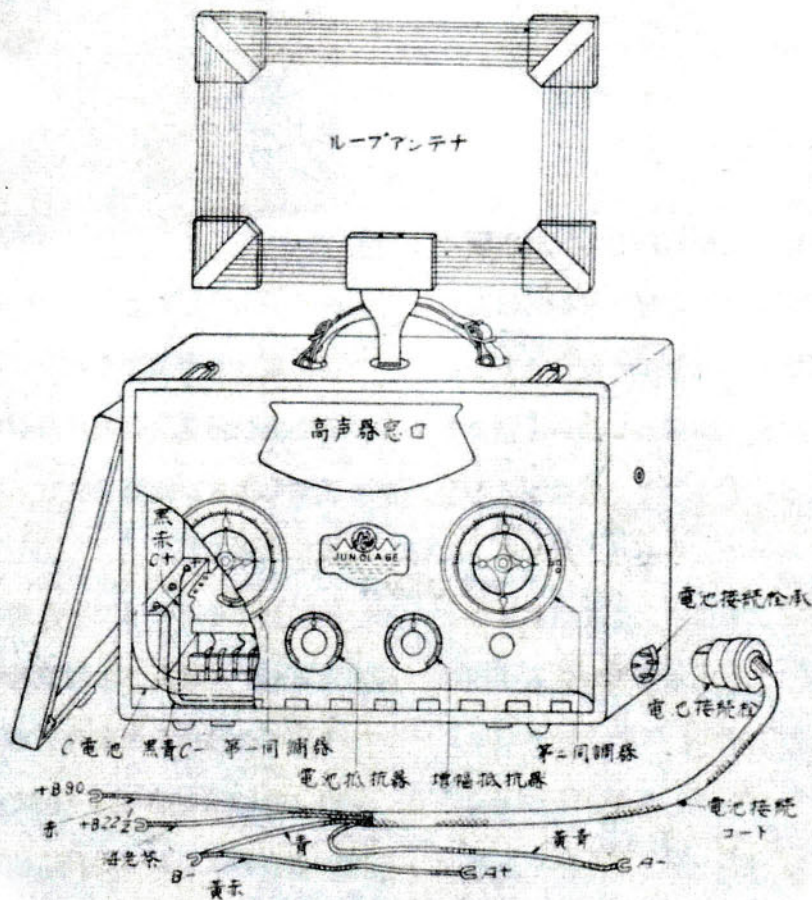
ラジオ界に於てスーパーヘテロダイン受信機と云へば最もすぐれた受信能力を有し且大きな形のものと思像されてゐる。

事實スーパーヘテロダインはラジオ界の最高級品であり、明星である。従つて其の値段も相當高價になることを免れない。

故に世界各国一流の受信機製造會社にても本機の製作を競ひ、中でも GE 會社のラジオラスーパー

ヘテロダインの如き優れた受信機が出来た。

然し其の製作品はもとより歐米向に出来てゐて、純日本向きや和洋折衷向きに出来たものは殆ど皆無と云つてもよい。それに又重量や大きさが大で、一人でこれを海や山に持運んでその妙音を楽しむと云ふ様な眞の意味に於ける携帯用スーパーヘテロダインは未だ何處の市場にも姿を見せなかつた。



第一圖

當芝浦製作所に於ては常に研究に餘念なく先にジュノラスーパーヘテロダイン 6A, 6B, 6C, 及び 6D 等の諸型のを製作して江湖の愛用を博してゐるが、今回更に上述の種々の要件に適合する様な最も軽く、體裁よく、能率よく且安價なるジュノラ 6E 携帯用スーパーヘテロダインを製作した。

此の受信機の方式はスーパーヘテロダイン受信方式で國産品中内容外觀取扱ひ共に最高品として誇り得る逸品である。

家に置いては和洋何れにも調和よく、或は山に海にピクニックに、避暑に避寒に四時無二の好伴侶たるを失はない。けだし内外製品にして之に追従し得るものはなからう。

ジュノラ 6E の特長

本受信機は大きさから言つて高さ30匁弱、横の長さ約35匁餘、蓋を合せての全體の厚み約17匁の極めて小型のものである。又その重量に於てもわづか10匁約(2.7貫)に過ぎぬ極めて軽いものである。目方や型の小なるばかりでなく其の上この受信機はアンテナ、アース共に不要で、只セ、トに備付けの小さなループアンテナ丈で受信することが出来る。然し勿論アンテナも、アースも接続出来る様にはしてある。

型式及び構造

型式は次の通りである。

タイプ 6E フォーム 1

受信方式スーパーヘテロダイン六球式

即ち無線周波増幅一段、中間周波増幅三段、可聴周波増幅二段と、これに發振装置及び檢波裝置二段を加へて都合八球要するものを一球はレフレックスし他の一球は發信及び檢波を兼ねさせて六球にしたものである。

次に構造の大略を述べよう。



第二圖

第二圖は外形圖である。

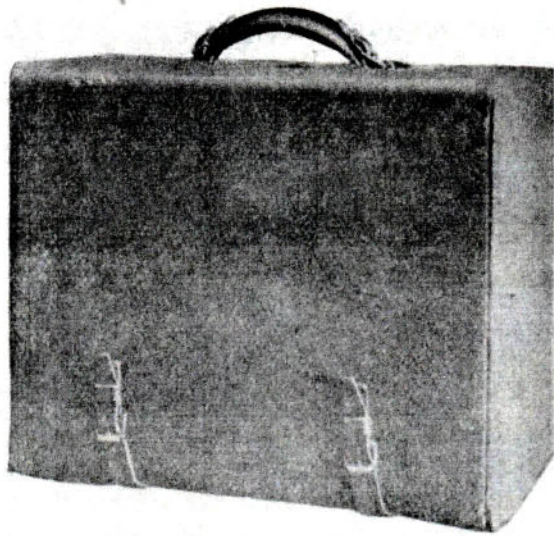
此の受信機を旅行等に携帯する時は第三圖の如く美麗なるズック製のカバーに入れて持ち運びする様に出来てゐる。

受信機のキャビネットは櫻材で作られ、この上をマホガニー塗りとし體裁甚だ優美である。

パネルは狂ひを生じない事を第一要件とし紅葉材の木目の正しいベニヤ板で作られ、これに高聲器の窓口やアンテナ同調用の第一可變蓄電器、發振用コイル、發振用の第二可變蓄電器、フィラメ

ント可変抵抗器、増幅抵抗器等が取付けてある。

この兩可變蓄電器はスプリングのベルトによつて可動板を回轉する仕掛になつてゐる爲に今まで



第三圖

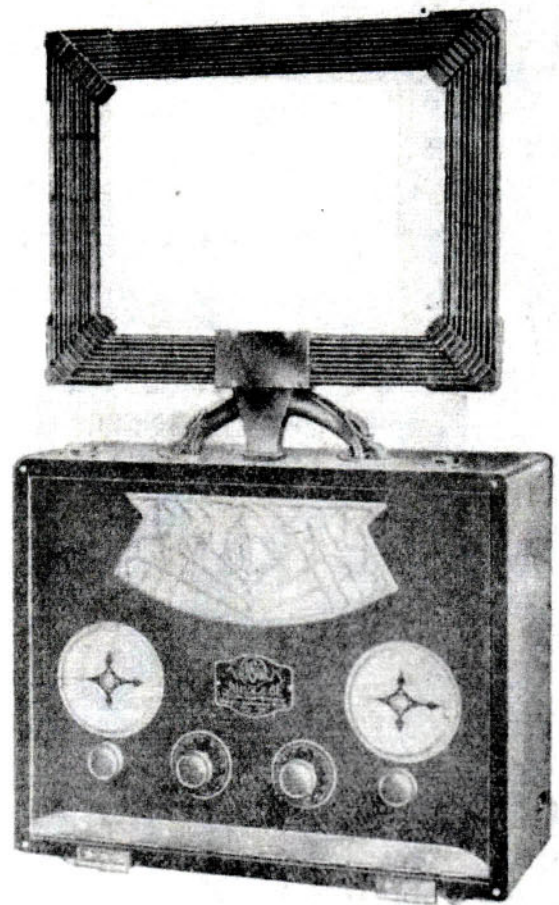
のバーニヤ式可變蓄電器より尙一層具合がよい。(實用新案第92260號、第94323號並びに出願中1件)又兩抵抗器も具合よく精巧に出來てゐる。(實用新案第95440號)

キャビネットの内部には高聲器、キャタコム、C電池承、及び豫備真空球入等が取付けてある。

高聲器の發音部分は米國のGE會社のラチオラ高聲器の發音部と同様であるから、音色もよく感度も鋭敏である。

キャタコムとは第五圖に示す如く、真空球の差込であるブリキ函製のものを指し、内部には無線周波、中間周波、可聽周波等の變成器が入つてゐる。(實用新案第95439號、第98557號)

A電池及びB電池はキャビネット内部には入れずに特別工夫された電池接続コードによつて簡單



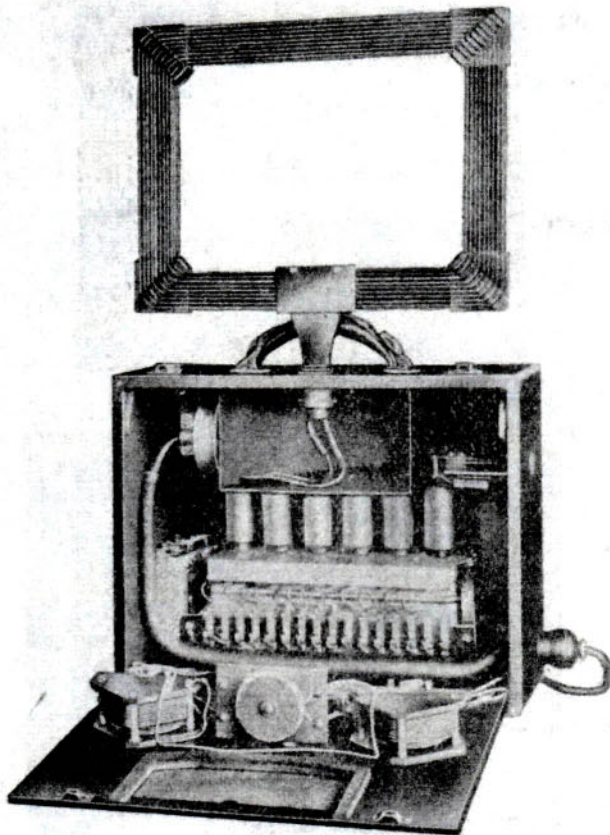
第四圖

につなぐことが出来る。

又高聲器も別のものを使用したい時には、右側面の上方のジャックにプラグを差込めば直ちに働く様になつてゐる。

取扱ひ其他の諸注意

取扱ひ方としては少しもむづかしい所はなく、單に電池の接続法及びアンテナ使用の際のアンテナ接続器の儀め方等を誤らない様注意すればよい。調整もこれまでのスーパーヘテロダインと同じく、感度鋭敏で、誰にも雜作なくできる。



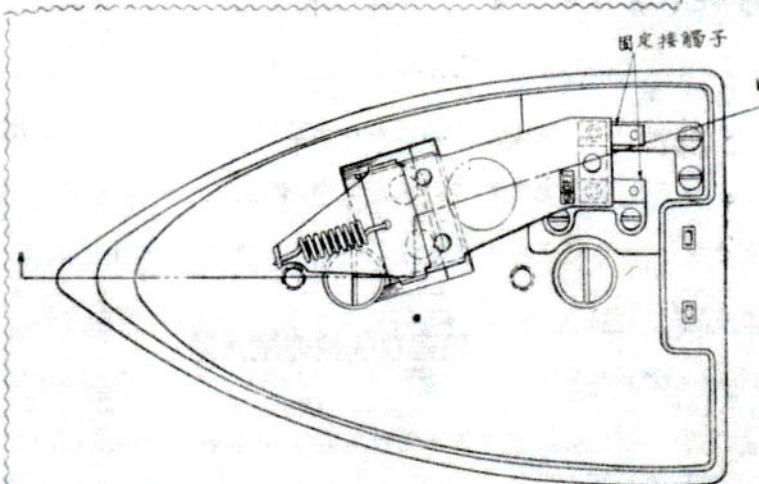
第一五圖

故障の原因としては、大抵の場合、受信機自身の故障は少く、接続の誤り或は真空管、電池等の不良から來ることが多い。

以上述べた様に此の受信機は取扱其の他殆んど總てが簡単に出來て居て、往々市場に見るとき、「構造が複雑で使用にむづかしい」といふことと同意語なるかの如き「高級」の辭を冠するものとは全く選を異にしてゐるのである。(終)

形になり、丁度圖の位置となつて、回路は閉ぢられてある。所が今、溫度が定められた値より高くなると、忽ち調溫板が彎曲し初めて彈性金屬片を下方に押下げ、遂に其の先端を腕金の下端から外して了ふに至るのである。腕金はスプリングに引張られて今迄彈性金屬片の先端を押してゐたのだから、之が外れれば勢よく或る角度だけ廻轉し、同時に接觸腕金を跳上げて、茲に回路は遮斷されるわけである。而してアイロンの溫度が漸次下るに従ひ、調溫板は初めの位置に復するが、彈性金屬片だけは腕金の下端に邪魔されて元の位置へ戻れない。此の時アイロンの上部に設けられた閉路用釦を手で押せば、接觸腕金が閉路の位置に押戻されて再び回路を作り、同時に腕金及び彈性金屬片は夫々最初の位置に復し、再び溫度が超過するまでは働かないのである。

閉路用釦の胴の周圍には螺旋狀のスプリングが挿入してあり、之が常に釦を上を押上げてゐる。又胴の横には僅かの突出部があつて、圖の様に屈曲した溝へ嵌まつてゐるため、釦を押すには相當の力を加へなければ動かないが、此の突出部が溝の曲り角を過ぎればハズミで勢よく押下げられる様になつて居るから、接觸子が回路を閉ぢる瞬間極めて迅速に動作するのである。又接觸腕金の背面には開路表示板といふものが取付けてあり、其面には“OFF”の文字が刻まれてゐて、若し接觸腕金が跳上つて電路が斷たれば此“OFF”がカバーの孔から顔を出して、外部から直ちに開路した事が分る様になつてゐる。以上の開路及閉路等の諸動作は、すべてスプリング仕掛であるから、誠に小氣味よく敏活に働くものである。



自動調溫装置付電氣

アイロン (338頁より)

普通の状態、即ちアイロンの溫度が或る一定の値に達しない間は、腕金の下端は彈性金屬片の先端に固へて止つてゐるから、接觸腕金も下部に下つてゐて二個の固定接觸子間は可動接觸子に依つて橋を架けられた